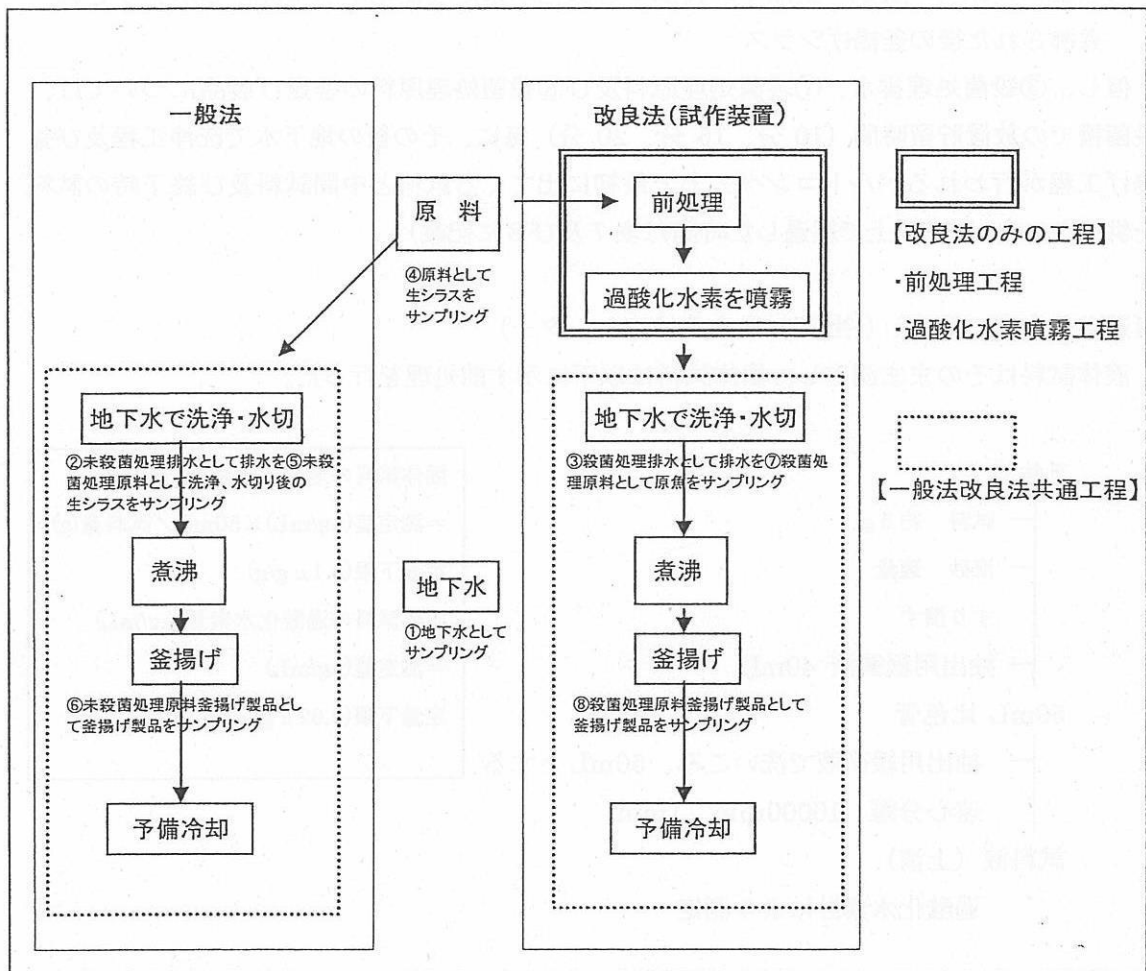


生シラスを殺菌処理槽へ順次移動させた。3%過酸化水素水の噴霧量は 1t の生シラスに対し、20L の比率で行った。

- 5) そのまま殺菌処理槽で 10 分、15 分、20 分と殺菌時間を変えて放置貯留した。なお、作業の効率（生シラスの量、ベルトコンベアの長さ、貯留槽まで達する距離等）を踏まえ、放置貯留時間は 10 分以上で設定した。なお、殺菌処理槽の温度は、試験実施時期（12 月～1 月）の海水温等を踏まえると 15～20℃と推察される。

○一般法及び改良法共通工程

- 6) 順次バケットコンベアを介して殺菌処理槽（一般法では原魚タンク）から生シラスを取り出し、生シラス 300g/秒、洗浄水 2L/秒で 5 秒間ベルトコンベアを流しながら洗浄し、煮沸釜（1t の 2.5%沸騰食塩水）に投入した。
- 7) 生シラスを 90 秒間釜中を流した後、ベルトコンベアで流しながら予備冷却した。



注：フロー图中的①～⑧は後述の過酸化水素の測定に供した試料を示したものの

図2 一般法と改良法のフロー図

過酸化水素の測定に供した試料は以下の①～⑧であるが、どの工程でサンプリングされ